

Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>

発行人 鈴木 達二

令和5年度 基本方針

建設未来協議会 会長 鈴木 達二

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ移行され、3年に渡る「コロナ禍」に一区切りがつけられました。それに先行して諸外国はもとより、国内においてもすでにウィズコロナ・ポストコロナ時代へと、人々の意識や行動、企業の動向は変化しています。一方国際情勢は、国際紛争や世界経済の状況により、先行き不透明で速い変化が予想される状況は変わっていません。

そのような不確実な状況においても、「地域の守り手」として安心・安全の確保や生活環境の整備・維持の役割を担う建設業は、持続的にその使命を果たしていかなければなりません。

当会としては昨年度同様、社会情勢や環境に適応した活動を継続的に行っていくことにより、建設業の健全な発展に向けた課題解決に貢献していきます。例えば、業界全体の喫緊の課題である「担い手確保」、その大前提となる「働き方改革」、その手段としての「生産性向上」、課題解決を側面からバックアップする「地域貢献活動」や「広報・イメージアップ」。これらに対して当会は、茨城県建設業協会の青年部として協会本部・支部および各委員会はもとより、女性部会である「建女ひばり会」とも協力し、関係機関・団体と密接な連携を図りつつ積極的な活動を展開していきます。各分野における活動方針は以下の通りです。

(1) 地域貢献・社会連携分野

- ① 建設業および建設業が担う地域インフラ整備の重要性について、地域の皆様の理解をより深めていただくために積極的なボランティア活動、イベント開催等を行う。
- ② 持続可能な社会の実現に向けた建設業の役割、および建設業界で多様な人材が活躍できるためのダイバーシティの推進についての研究および啓蒙活動を行う。

(2) 生産性向上分野

- ① 加速するDX（デジタル・トランスフォーメーション）の動きの中、ICT施

工はもとより、BIM/CIMやバックオフィス業務のデジタル化、AIの活用など、事業全体へのデジタル技術活用による生産性向上と経営力強化に向けた研究および啓蒙活動を行う。

- ② 働き方改革・生産性向上に関する技術的・制度的な課題について、会員相互に、また発注機関と積極的に情報共有し、課題解決に取り組む。

(3) 次世代育成分野

- ① 体験学習や出前授業、イベントでの情報発信、教材等の制作・配布を通じ、幅広い年代の建設業および地域インフラへの興味関心、将来の就業意識の醸成を図る。
- ② 教育関係者や学生・生徒と積極的にコミュニケーションを行い、教育支援活動等に関する建設業界へのニーズの把握に努める。

(4) 広報・ソーシャルメディア分野

- ① 「建設」（建設業および地域インフラ）に関する各種トピックスについて、ニーズに合わせた情報発信を行うことで、地域の安全・安心を守る地域建設業の重要性を広く一般にPRする。
- ② 一般参加型のイメージアップ事業や、SNS等ソーシャルメディアの活用を通じ、一般社会との双方向のコミュニケーションを行うことで、「建設」が身近な存在となるよう務める。

以上



令和5年度第31回定時総会を開催

総務委員会 副委員長 石津 弘敏

令和5年度第31回定時総会は5月12日(金)にホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸において、政府の新型コロナウイルス感染症対策緩和後、初の定時総会が開催された。

冒頭、あいさつに立った鈴木会長は新型コロナウイルス感染症対策が一区切りついたこと、不透明な世界情勢などに触れ、「大きな変化がいつ起きてもおかしくない状況、そのような中でも我々は地域の守り手としての役割を継続的に果たしていかなければならない。」と決意表明し、本年度について「これまでの基本方針を踏襲し、現体制の総仕上げの年度としたい。」と意気込みを語った。

続いて(一社)茨城県建設業協会石津会長は建設フェスタが3年ぶりに開催できたことに触れ、「若者が夢をもって将来を託せる魅力的な建設業となるよう皆様と一丸となり、若い人達の考え方を建設業協会の運営に反映していきたい。」とさらなる協調体制構築を求め、「来年4月からの時間外労働の上限規制が適用される。これからの働き方改革について皆様と一緒に勉強しながら、クリアしていかなければならない。」と呼び掛けた。

その後は鈴木会長が議長となり、議事を進行。令和4年度事業報告及び収支決算、令和5年度事



石津会長



鈴木会長



田村部長

業計画案、収支決算案などを審議し、いずれも原案通り承認された。

来賓祝辞では田村茨城県土木部長が「建設業は担い手不足が顕著であり、受発注者が協力して担い手育成、確保に取り組んでいく必要がある。その中で皆様には、様々な取り組みを戦略的に行って頂き、建設フェスタでは約1万5千人の来場者を集め、建設産業を大いにPRして頂いた。これからも茨城県としては皆様の活動を支援してまいりたい」と述べた。

総会終了後は懇親会を開催し、卒業生及び新規入会者の挨拶が行われ、盛況のうちに本会は幕を閉じた。

第27回 建設フェスタ2022を開催

地域貢献活動委員会 副委員長 高野 弘康

新型コロナウイルス国内初の感染者が確認されたのが令和2年1月中旬頃、そこからコロナ対策に基づく緊急事態宣言が全国に発令されたのは同年の4月16日でした。緊急事態宣言によって皆様の生活が大きく変わったのも記憶に新しいと思います。この建設フェスタも大きく影響を受けたのを覚えています。令和2年は緊急事態宣言の発令により中止となり、令和3年初旬、緊急事態宣言が解除されたばかりで厳しい制限の中、建設ラボという形で入念に準備をした日々を思い出します。しかし新型コロナウイルス感染拡大は収まることはなく、同年8月8日に蔓延防止等重点措置に入ってしまったこともあり、2年連続の開催中止が決定されました。そして第26回から3年経過し、新型コロナウイルス感染状況は決して収束したわけではありませんでしたが、自粛やオンライン授業等、今まで経験したことのない不安な生活の中で疲れてしまった子ども達を笑顔にしたい思いで、様々な問題、課題に対応しながらの建設フェスタになりました。感染対策の検討、催事会場の規模の見直し及び入場者の規制、催事内容の見直しなど、開催を行うための対応を重ねていきました。入場時の検温、消毒、再入場管理、アマビエちゃんの利用促進、催事会場の小規模化、飲食ブースの廃止等、問題に対して対応策を決め開催へ向けて準備が進められていきました。

そして…令和4年10月8日(土)に、第27回目となる建設フェスタ2022が笠松運動公園にて開催されました。



当日は雲一つない青空が広がっていて、入場口には沢山の来場者の方が並んでいました。入場時に検温、消毒を行わなければならなかったのが、慣れない対応に私たちも戸惑いましたが、例年と比べることも出来ない位の多数の来場者を見て、驚きとともに、開催できたことがとても嬉しかったと鮮明に覚えています。開始早々、過去に類を見ないほどのお客様が来場し、行列ができておりました。特に、重機や車両の展示・搭乗体験は大変人気で、リフトアップされた高所作業車の架台からの景色は子ども達だけでなく、保護者の方々にも大変喜んでもらえました。また、ミニ消波ブロックの製作は、普段何気なく見ているコンクリート構造物が出来上がる過程を実際に五感で感じることでできる体験になっており、建設工事におけるものづくりの楽しさを直に経験できる催しだと思います。また今回も先端技術コーナーがあり、画面上に映された山林で伐採から丸太の加工まで体験できるシミュレーターを設けました。良い天候と関係者の入念な準備のお陰もあり、約15,000人ものお客様にご来場頂きました。

最後になりますが、パンデミックという未曾有の状況が続く3年ぶりの開催となる中で、建設フェスタという大イベントの開催にご尽力いただいた茨城県土木部をはじめとする発注者各位、参加・協賛団体及び協力企業に御礼を申し上げます。子ども達の夢を育み、笑顔にできるこのイベントが開催出来たことに心から感謝いたします。

中学生たちがものづくりの楽しさ学ぶ

境町立第一中学校に倉庫建築

県西地区 幹事 青木 敏紘

令和4年度のCCI茨城（茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議）「建設体験学習」を令和4年11月8日、11月30日の2日間で境町立境第一中学校の2年生（136名）を対象に開催しました。

1日目の体験学習では、「木造倉庫の基礎工事体験」、「測量体験」、「ドローン操縦体験」を行いました。基礎工事体験では苦戦をしながら鉄筋を結束する作業を行い、生コンクリート打設作業では普段触った事のない柔らかいコンクリートをスコップやバイブレーターで打設や均し作業を楽しんでいました。測量体験ではトータルステーションを用いて、投げたボールの着地点までの距離を測るといった体験をしてもらいました。ドローン操縦体験では実際にドローンを操縦して、15mの範囲で自由に飛ばすという体験をしてもらいました。タブレットを見ながら操縦する事に戸惑いながら楽しんで体験してもらいました。

2日目の体験学習では、「木造倉庫の組立体験」、「高所作業車体験」、「バックホウの遠隔操作体験」、「従来型のバックホウ操縦体験」を行いました。木造倉庫では予め加工してある壁材の設置作業とカンナ掛け体験を行い、木材をカンナで薄く削る作業に驚いていました。高所作業車体験では10m程作業台を垂直に上げ境町の風景を見て楽しん



で頂きました。遠隔操作バックホウでは0.45㎡級のバックホウをテントの中から実際に動かしてもらいました。離れた場所からの操作で大きいバックホウが動く迫力に生徒もびっくりしながらも楽しんでいました。従来型バックホウでは0.15㎡級のバックホウに搭乗して操縦体験をしてもらいました。

完成した木造倉庫は「清水」と命名され12月19日に引渡式を行いました。引渡式では主催者挨拶として茨城県土木部（技術管理統括監兼検査指導課長 佐竹義人様）、茨城県建設業協会（副会長兼境支部長 新井孝様）よりご挨拶頂き、境工事事務所（所長 野島泰久様）にもご列席賜りました。又、境町教育委員会（教育長 忍田暢男様）、（校長 武田弘様）、生徒代表者からもご挨拶頂き、「今回の建設体験学習で物づくりの大切さを知り、とても良い経験ができた。想像していた以上の立派な倉庫が完成し、どのように使用するか今でも迷っている、大切に使用させていただきます。」と感謝の言葉を頂きました。

今回、木造倉庫の引渡し後に建設体験学習のアンケートを実施しました。その中で1日目と2日目の体験学習で楽しかったものを聞いたところ1日目はドローン操縦体験と答えた生徒が1番多く、



続いて木造倉庫基礎工事体験、測量体験といった順番でした。2日目は、高所作業車体験と答えた生徒が1番多く、続いて遠隔操作バックホウ、従来型バックホウ、木造倉庫の組立体験といった順番でした。そして、建設体験学習に参加してみて感じた事という質問に対しては、楽しかったと答えた生徒が88%を占めました。

今回の建設体験学習を通して建設業の事を知ってもらい興味を持ち、将来就職する時に建設業という職種が選択肢の1つにあがってくれる事を願うとともに、建設体験学習にご協力して下さった境町、学校関係者の方々、茨城県土木部、茨城県建設業協会、機器や重機を提供して頂いた協力会社の方々にご心より感謝申し上げます。



いばらき「建設フォトコンテスト」2022を開催

社会コミュニケーション委員長（広報・ソーシャルメディア担当） 小倉 健太郎

社会コミュニケーション委員会では建設産業のイメージアップ活動の一環として、建設フォトコンテストを開催しております。この活動は、建物、道路、橋、トンネル、ダム、港湾などの地域インフラやその建設現場、そこに携わる人や建設設備など、「建設」をテーマとした写真の撮影、コンテストへの応募、入選作品の鑑賞を通じて、地域建設業への理解を深めていただく事を目的として行っております。

昨年度はInstagramからの応募も可能とし、応募総数633点と多くの方から応募いただきました。「建設のある茨城の風景」がテーマのA部門、「人と建設のつながり」を

テーマとするB部門の各部門で最優秀賞1点、特選4点、準特選1点、U22（22歳以下）特別賞1点、入選15点を選出しました。入賞作品は今年度も茨城建設業協会のカレンダーにも活用されております。



A部門【建設のある茨城県の風景】最優秀賞「明日へとつなぐワンプレイ」 萩原 晃氏

第8回 砂場クリーン作戦を実施 — 砂場清掃 と 築山作り —

地域貢献活動委員会 伊東 優考

新型コロナウイルスという世界的パンデミックを受け、子供から大人まで行動制限を余儀なくされた時代になり、我々地域貢献活動委員会も外部での活動を制限されました。

そこで、対応策が見え始めた3年目、感染防止対策を徹底的に考慮し、3年ぶりの活動「砂場クリーン作戦・築山作り」を銚田市にある社会福祉法人新宮福社会青山こども園にて、令和4年6月9日に実施致しました。①子供達に安全で衛生的な砂場



環境で遊んでもらう事、②建設現場で活躍する機械を見て、触って、乗って、聞いて、実際に触れ合ってもらう事、③夢を与える職業として、感動を与えること、の3点を目的に活動計画含め、開催致しました。

作業内容は、現在使用している砂場の砂を掘り起こし、電動振るい機にかけ、異物を除去。振り分けされ、きれいになった砂を砂場に戻し、消毒液の散布と防除ネットの製作設置。

築山作りでは、大型ダンプトラックにて搬入した土を、バックホウにて整形し、締固める作業や、使用した重機に試乗するなど、各エリア確実な安全管理を実施した上で、作業を行いました。

今回の砂場クリーン作戦では、きれいになった砂を戻してもらい役割を担っていただきました。

開会式を終え、ヘルメットをかぶり、園児の準備が出来たところで、スコップとバケツを持って

砂場へ。園児達は、一生懸命バケツいっぱい運んでくれる子、少しずつでも何回も何回も運んでくれる子、「お兄さん！こんなにもってきたよー！」「見て見て！楽しい！」「重いけど頑張る！」と言った、園児の頑張りに私達も一緒になって取り組むことが出来ました。

一方で反対側を見るとだんだんと高くなる山を見ては園児達も「何が出来るの〜？」と希望を膨らましながら待っていたり。園児達は、出来上がった砂場や築山を見て、「早く遊びたい！」と目をキラキラ輝かせながら、いつもとは少し変わった景観に、「お兄さん、ありがとう、うれしい」「僕も大きくなったらこの機械運転したい」と言葉にしてくれました。

閉会式では、先生・園児からは感謝の言葉をいただき、とても嬉しくなりました。

世界的な目標「SDGs」持続可能な開発目標



を掲げる世界の一員として、地域貢献活動委員会も、これからも地域の為に貢献できる委員会としてこの活動が建設業の発展に繋がるよう、精進していきます。

最後にコロナ禍での開催にあたり、今回の活動にご協力いただいた「社会福祉法人新宮福祉会青



山こども園」様に感謝を申し上げますとともに、地域貢献活動委員会を中心とした多数の人数で参加して下さったスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。今後もこの活動への変わらぬご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

「建設業のDX講習会」を開催

社会コミュニケーション委員会（社会連携・担い手育成担当）委員長 田口 富之

令和5年2月7日に茨城県建設技術研修センターにおいて81名参加のもと、東日本建設業保証株式会社様の協賛により建設未来協議会講習会を開催いたしました。講習会では株式会社ITワールド代表取締役である家入龍太様を講師に迎え、「現場が楽になる建設業DXの進め方とは？おすすめ技術から始め方まで」の講演をしていただきました。

規制の適用、魅力ある建設業であるための完全

週休2日制の普及等に対応していくために更なる生産性向上を各社が求められている中で、DX、ICT技術の活用はなくてはならないツールの一つになっていることは間違いありません。今回の講習会では現在取り組まれている最新技術だけではなく、スマートフォンのような身近なものを利用した技術を知ることができ、会員各企業のDX、ICT技術の更なる普及の一助となりました。

円滑な業務へ行政機関と意見交換会

常総国道事務所・北首都国道事務所

県南地区 幹事 鈴木 亮

令和4年7月1日(金)、土浦市内の国土交通省関東地方整備局常総国道事務所において、意見交換会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小しての開催となりましたが、北首都国道事務所 佐藤眞平事務所長、常総国道事務所 浜谷恒平事務所長をはじめとする事務所幹部の方々に出席をいただき、建設未来協議会と現場管理の実務や入札・契約制度の取り組みなどについて意見を交わしました。

議事では、関東地方整備局から主要事業の概要、入札契約制度等に関する最近の話題などについて

の説明があり、建設未来協議会から、コロナ禍で活動が制限される中で工夫を凝らした事業の報告をさせていただきました。また、事前に会員企業に実施したアンケートをもとに、現場から上がる生の声を報告しました。

続いて、多種多様な入札制度、ICT施工に関する地域の実状、働き方改革、週休2日制適用工事についてなど、幅広く踏み込んだ内容の意見交換をさせていただきました。建設未来協議会及び発注者からも忌憚のない意見が出て、とても有意義な意見交換会となりました。

下館河川事務所

県西地区 幹事 青木 敏紘

令和4年9月26日(月)、下館河川事務所との意見交換会を開催しました。新型コロナウイルス感染対策としてWEBでの開催となりました。下館河川事務所からは海津義和事務所長をはじめ多くの事務所関係者の方々にご参加いただきました。

議事では、下館河川事務所側からは、「入札、契約、総合評価」の実施方針や「建設キャリア

アップシステム」について説明頂きました。未来協議会側からは、建設フェスタやボランティア活動などの地域貢献活動についてや建設フォトコンテスト、インターンシップや現場見学会などの活動等を紹介しました。

WEBでの開催となってしまいましたが、とても良い意見交換ができました。

常陸太田工事事務所・高萩工事事務所

高萩・太田地区 幹事 須田 要介

令和4年11月21日(月)、常陸太田工事事務所において常陸太田工事事務所(木村政美所長)と高萩工事事務所(小藺江実所長)と合同意見交換会を開催しました。常陸太田工事事務所からは木村所長をはじめ各課課長、検査監など執行部の皆様方、高萩工事事務所からは高野次長にご臨席賜りました。

議事では、労働災害防止について伊藤検査監が説明。続いて総合評価改定の概要などを各関係課長から情報提供などの説明いただきました。

意見交換会では、ASP運用やICT施工、週休2日制やCCUSの運用などの議題が挙がり、積極的な活用・運用に向けて意見が交わされ、大変有意義な意見交換会となりました。

ベンチ付きテーブル製作を体験

鹿行地区 幹事 藤井 雅成

令和4年12月16日(金)に鹿行地区のベンチ付きテーブル製作体験学習を潮来市立潮来小学校にて開催いたしました。

この体験学習は、みんなで一緒にベンチ付きテーブルを製作することにより、協力してものをつくる楽しさや達成感を体験してもらい、これをきっかけにもものづくりの楽しさを記憶に残してもらい建設業が将来の選択肢になるようにと毎年実施しております。

当日は、6年生 34人と当地区会員14名を4つのグループに分け、組立図面を生徒に見せ、電動ドリルの使い方や作業時の注意事項を説明し、当地区会員指導のもとグループごとに作業を開始しました。

初めて手にする電動工具にドキドキしながらも真剣な眼差しで作業を行い、子供たちは順番に和



気あいあいと楽しそうにベンチ付きテーブル製作を行いました。完成後は班ごとにベンチに座りじぶんたちで作った物の評価をしあいながら記念撮影を行いました。

とても楽しそうに作業する子供たちの姿を見て、ものづくりの魅力を体感してもらえたと思います。

建設体験学習でグラウンドを綺麗に

高萩・太田地区 石井 貴之

令和4年11月8日(火)に、常陸太田市立水府中学校の2学年生徒11人を対象とした建設体験学習を行いました。体験学習として『重機体験』『測量体験』『高所作業車試乗体験』『簡易フェンス設置体験』の4つを行いました。

重機体験では、大雨の時に洗堀されてしまったグラウンド整備の要望があったので、生徒自身でバックホウを運転して山砂をすくい、洗堀されてしまった箇所投入し、スコップやレーキなどで均したあと、ローラーでの転圧作業を行いました。測量体験では、レベルを使った高低差の測量やトータルステーションを使つての角度と距離の測量を行いました。高所作業車試乗体験では、生徒たちも普段見たことのない景色を、時にはこわばりながらも楽しんでいただけました。簡易フェンス設置体験においては、野球部の要望から、練習中にボールが裏の谷に落ちてしまうのを防ぐためのフェンスを体験学習の一環として設置しました。

体験学習の終わりに根本校長先生や野球部生徒にもグラウンドが綺麗になったと感謝の言葉をいただきました。地区副幹事として初めての体験学習でしたが、母校でもある水府中学校に少しでも恩返しができ、やってよかったと心から思いました。この体験学習を通じて携わった学校関係者の方々が少しでも建設業に興味を持って、これからの建設社会を担って頂けたら最高だと強く思いました。



第27回全国青年会議全国大会を開催

27回目となる全国建設青年会議全国大会が、令和4年12月2日に、中国ブロック主幹のもと「建設産業 未来予想図～我々が向かうべき姿とは～」をテーマに明治記念館（東京都港区）で盛大に開催され、全国9ブロックから若手経営者ら約500名が参加しました。

まず、大会会長の伏見光暁氏（広島建設青年会議）があいさつし、続いて国土交通省の吉岡幹夫技監が特別公演を講義。

第2部では、福澤直樹氏（フクザワコーポレーション代表取締役社長）の「人口1万9千人の豪雪市で小さな建設会社を輝かす取り組み」と小野

貴史氏（小野組代表取締役社長）による「明日の地域を創るための人財育成」と題した、地域建設業の先進事例を紹介する基調講演が行われました。

第3部では他業界の先進事例として、土屋哲夫氏（ワークマン専務取締役）が「ワークマン式『しない経営』善意と共感による新たな生態系モデル」を紹介。第4部ではトークセッションが開かれ、野中賢氏（日経BP総合研究所社会インフララボ首席研究員）がコーディネーターを務め、パネリストとして大石久和氏（日本建設技術協会会長）と伏見会長が参加して意見を交換しました。

関東建設青年会議を開催

令和4年10月19日、ホテルブリランテ武蔵野にて、令和4年度通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、会員相互の情報発信・共有を掲げた事業計画（案）や昨年度の事業報告について報告・承認されました。その後の役員改選では、千

葉県の笏山大介氏が新会長に選出されました。

続けて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、建設業界を取り巻く課題や新技術・施策などに関して意見を交わしました。

令和5年12月には、関東ブロック主幹で第28回の全国建設青年会議を開催します。成功に向け、引き続き全力で取り組んでいきます。

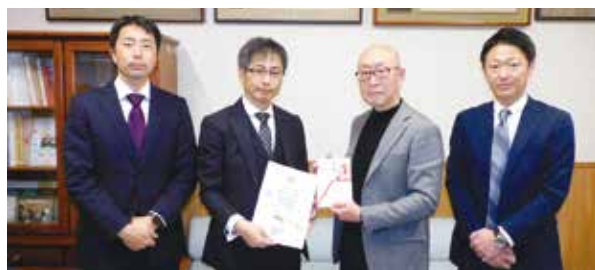
児童養護施設へチャリティー金 寄付

本年も社会貢献活動の一環として、当協議会のチャリティーゴルフコンペ収益金を令和5年2月23日に土浦市内で児童養護施設を運営する社会福祉法人茨城県道心園（横田直和理事長）へ寄付しました。また「いばらき建設図鑑」を子供たちへ贈呈しました。

児童養護施設への寄付は今回で6回目となります。

寄付金を受け取った横田理事長からは「大変ありがたい限り。コロナ禍で様々な活動に制限があ

り子供たちもストレスが溜まり気味。子供たちの意思を尊重しながら、大切にに使わせていただきたい」と、お礼の言葉を頂きました。



委員会紹介

総務委員会

担当副会長 櫻井俊一（櫻井建設工業株式会社）
委員長 長山朋之（長山工業株式会社）
副委員長 須田要介（日立土木株式会社）・河野真（株式会社河野工務店）・石津弘敏（常総開発工業株式会社）・島崎崇（北条工業株式会社）・仁平大介（株式会社仁平工務店）
委員 足立憲史（足立建設株式会社）・雨貝綱太（株式会社水戸グリーンサービス）・桐原裕一（株式会社桐原工務店）・高橋順子（高橋建設工業株式会社）・長谷川優子（平和建設株式会社）・若松亜紀子（菅原建設株式会社）・菊池康平（菊丸建設株式会社）・平山悠（株式会社水府工務店）・大内榮樹（株式会社大栄建設）・金澤陽治（株式会社金沢建設）・益子正太（株式会社益子）・吉原政文（吉原建設工業株式会社）・飯塚揚（株式会社飯塚工務店）・石津松吾（石津産業株式会社）・鏑木大輔（鏑木建設株式会社）・下館雄樹（株式会社波崎建設）・飯塚亮平（飯塚建設株式会社）・田林剛（勝工業株式会社）・成島隆平（成島建設株式会社）・松尾彪（松尾建設株式会社）・石田達郎（石田道路株式会社）・田所大和（株式会社ワイエスケイ）・白田諭（白田工建株式会社）・宮本恭成（石塚産業株式会社）・柴信一（旭建設工業株式会社）・中山英士（のだや建設株式会社）・松本浩治（株式会社新栄開発）・山下祐史（山下工業株式会社）

社会コミュニケーション委員会

担当副会長 栗山秀樹（栗山工業株式会社）
委員長 田口富之（株式会社田口工務店）・小倉健太郎（株式会社小倉工務店）
副委員長 荒川繁美（水戸土建工業株式会社）・宮本裕司（芳野工業株式会社）・井坂陽介（株式会社井坂組）・生田目憲明（株式会社進栄）・福智勇人（福智建設工業株式会社）・赤塚剛（株式会社赤塚土木興業）・鈴木亮（北都建設工業株式会社）・中山英俊（株式会社染谷工務店）
委員 足立憲史（足立建設株式会社）・池田大輔（コスモ総合建設株式会社）・梅沢匠（株式会社福田工務店）・大貫可奈以（株式会社大貫工務店）・小池良一（株式会社小池工務店）・横田修一（株式会社横田建設）・中井将史（株式会社中井工務店）・中野陽平（株式会社根本組）・石井貴之（株式会社石井建設）・大須賀浩平（株式会社大須賀工務店）・河野真（株式会社河野工務店）・大森裕一郎（大森建設株式会社）・齋藤靖弘（株式会社サイトウ緑地開発）・藤井雅成（株式会社丸二工務店）・安藤祐章（株式会社鹿島企業）・飯島新史（飯島建設株式会社）・澤田進一（澤田建設株式会社）・田崎翼（株式会社田崎技術）・佐々木祐也（常磐建設株式会社）・寺田健一郎（株式会社羽原工務店）・細谷貴弘（細谷建設工業株式会社）・浅野麻由美（浅野物産株式会社）・磯邊集（株式会社アレスコ）・齋藤誠（株式会社斉藤建設）・成島隆平（成島建設株式会社）・新井雅貴（株式会社アロウス）・中川喜夫（中川ヒューム管工業株式会社）・石嶋尚（株式会社石嶋建設）・鮎川和男（飯田建設興業株式会社）・堀江平（堀江産業株式会社）・串田一仁（株式会社クシタ建設）・野口貴生（野口機設工業株式会社）・山本明宏（株式会社下妻建設）・新井邦幸（株式会社新井建設工業）・印出正人（株式会社丸健工業）・小川敦史（小川建設工業株式会社）・加藤裕司（加藤建設工業株式会社）・染谷真一（株式会社染谷建設工業）・高橋拓也（株式会社高橋芝園土木）・中村亮太（中和建設株式会社）

地域貢献活動委員会

担当副会長 内藤裕一郎（株式会社内藤工務店）
委員長 根本昌義（株式会社根本工務店）
副委員長 秋山正人（株式会社秋山工務店）・若松亜紀子（菅原建設株式会社）・瀬谷政行（瀬谷建設株式会社）・川崎和洋（株式会社川崎建設）・高野弘康（株式会社高野工務店）・菅谷一成（株式会社菅谷工務店）・浅野麻由美（浅野物産株式会社）・串田一仁（株式会社クシタ建設）
委員 梅沢匠（株式会社福田工務店）・大貫可奈以（株式会社大貫工務店）・桐原裕一（株式会社桐原工務店）・仙波秀教（仙波建設株式会社）・長谷川優子（平和建設株式会社）・益子朋（益三建設株式会社）・鈴木欽一（株式会社鈴木組）・浅川宗典（株式会社浅川建設）・井上将人（株式会社井上工務店）・大内榮樹（株式会社大栄建設）・大須賀浩平（株式会社大須賀工務店）・清水亮（株式会社田本工務店）・鶴田大海（株式会社鶴田組）・根本貴史（株式会社ネモト建設工業株式会社）・橋本将一（橋本建設株式会社）・八木満津雄（株式会社八木組）・石井愛理（株式会社石井工務店）・伊東優考（株式会社伊東建設）・齋藤卓也（株式会社斉藤建設工業）・新堀進也（株式会社新堀産業）・根崎亮（株式会社根崎工務店）・羽生貴之（株式会社羽生工務店）・藤枝賢一（株式会社藤枝建設）・堀江光（株式会社光建）・犬塚正一（株式会社和城産業）・大川雄生（株式会社サンワ興業）・城内浩和（株式会社大平工業）・富山秀人（株式会社富山園建設）・保立明宏（株式会社宏洋）・松崎祐二（松崎建設株式会社）・櫻井郭実（株式会社櫻文工業）・福智勇人（福智建設工業株式会社）・仲川将大（株式会社仲川建設）・大坂寛暁（大坂建鋼株式会社）・菊池健郎（株式会社菊池土建）・鈴木匡明（株式会社鈴木鉄工建設株式会社）・端孝平（株式会社端工務店）・青木敏紘（株式会社青木建設）・小澤淳（小沢道路株式会社）・並木唯久（株式会社並木建設工業）

令和5年度 役員名簿

No	地区	役職	氏名	商号
1	高萩・太田	会長	鈴木達二	鈴縫工業(株)
2	県南	副会長(総務担当)	櫻井俊一	櫻井建設工業(株)
3	水戸	副会長(地域貢献活動担当)	内藤裕一郎	(株)内藤工務店
4	県南	副会長(社会コミュニケーション担当)	栗山秀樹	栗山工業(株)
5	大宮・太子	総務委員長	長山朋之	長山工業(株)
6	水戸	地域貢献活動委員長	根本昌義	(株)根本工務店
7	水戸	社会コミュニケーション委員長 (社会連携・担い手育成担当)	田口富之	(株)田口工務店
8	県西	社会コミュニケーション委員長 (広報・ソーシャルメディア担当)	小倉健太郎	(株)小倉工務店
9	水戸	地区幹事	秋山正人	(株)秋山工務店
10	高萩・太田	地区幹事	須田要介	日立土木(株)
11	大宮・太子	地区幹事	生田目憲明	(株)進栄
12	鹿行	地区幹事	藤井雅成	(株)丸二工務店
13	県南	地区幹事	鈴木亮	北都建設工業(株)
14	県西	地区幹事	青木敏紘	(株)青木建設
15	水戸	監事	横田修一	(株)横田建設
16	水戸	監事	若松亜紀子	菅原建設(株)
17	県西	監事	串田一仁	(株)クシタ建設

●令和4年度 新規入会者

No	地区	氏名	商号
1	水戸	梅沢匠	(株)福田工務店
2	大宮・太子	大須賀浩平	(株)大須賀工務店
3	県南(土浦)	中川喜夫	中川ヒューム管工業(株)
4	県南(竜ヶ崎)	松尾彪	松尾建設(株)
5	県西(常総)	宮本恭成	石塚産業(株)
6	県西(常総)	鈴木匡明	鈴木鉄工建設(株)
7	県西(常総)	端孝平	(株)端工務店
8	県西(境)	並木唯久	(有)並木建設工業
9	県西(境)	山下祐史	山下工業(株)

●卒業された皆さん

No	地区	氏名	商号
1	高萩・太田	吉田長邦	(株)吉田組
2	大宮・太子	大曾根篤	大栄建設(株)
3	大宮・太子	大曾根理一郎	(株)大曾根建設
4	大宮・太子	澤畠弘樹	東康建設工業(株)
5	大宮・太子	高倉美佳	高倉建設工業(株)
6	鹿行(潮来)	郡司誠	(株)郡司建設
7	鹿行(潮来)	谷田川智久	(株)ホソヤ工務店
8	県西(常総)	鈴木茂	鈴木鉄工建設(株)
9	県西(常総)	野中泰博	常総ブロック(株)
10	県西(境)	高崎弘道	(株)高崎建設

編集後記

去年までの通り過ぎるだけの花見と違って、以前のように混み合っているとまでは言えませんが、今年は、賑やかなお花見が見掛けられるようになりました。長いコロナありきの生活、マスク着用の自由化とコロナ5類への引き下げで、コロナに対する見方、付き合い方が変わって来たのではないかと思います。

しかし、まだまだ店舗やイベント会場などでのマスクの取り外しや消毒をしないという方は少ないと思います。実際、身近なコンビニやスーパーなどでもマスクを着用していない方は極めて少数ですし、お店側のマスク着用や消毒の願いがなくなっている訳ではありません。

ただ、コロナ禍全盛期と違うのは皆さん暗い顔をしている訳ではなく、コロナ発生前のような明るさがあることです。違いがあるとすればマスクを「しているか・していないか」だけだと感じました。このことからコロナはもう生活の一部であり、コロナ前の自由な生活ではなく、「コロナと上手に付き合いながらの新しい自由な生活」がやって来ると感じています。

私自身は、コロナの影響があるタイミングで建設未来協会に入会したので、コロナ以前のようなイベントや活動に参加出来ていません。建設フェスタも去年はじめて参加しました。地域の方や遠方からの方、建設業に興味がある方々がたくさんいらっしゃって話す機会があり、建設業をやっている自分自身とは違う視点や考え方にびっくりして、良い刺激になったのを覚えています。

今年は、コロナ緩和で控え目になっていた以前よりも、建設未来協会のイベントや活動が増えるのではないかと思います。活動を通して、去年よりも良い刺激を受ける機会が増えていけばと思っています。さらに、「コロナと上手に付き合いながら新しい自由な生活」を意識し工夫した活動を考え、建設未来協会もイベントや活動に参加して下さる方々、双方に実りがあり楽しめるイベントや活動を考えていけたらと思います。今から楽しみにしています。

(Y.K)